

## 岸宏子さん生誕100年記念事業

### ◆記念イベント

- 【とき】 8月21日(日) 午後1時30分～  
 【ところ】 ハイピア伊賀 5階大研修室  
 【内容】 ○記念講話  
 ○「私のイチオシ岸作品」入賞作品表彰と朗読発表  
 ○映画「喜劇“夫”売ります!!」上映  
 【定員】 先着100人  
 【入場料】 無料  
 【申込先】 文化振興課 ☎22-9621  
 【申込期間】 8月5日(金)～15日(月) (午前8時30分～午後5時)

### ◆岸宏子作品の復刻本刊行

現在絶版になっている出世作『ある開花』を復刻、販売します。  
 ※8月刊行予定

### ◆ブックレビュー「私のイチオシ岸作品」優秀賞

- 広報いが3月号などで募集したところ、市内外から17点の応募がありました。「岸宏子作品の魅力が十分に伝わるもの」であることを基準に審査の結果、次の3点を優秀賞としました。(敬称略)
- 『「お市の方」その先にあるもの』 田端 泰子(伊賀市)
  - 『「若き日の芭蕉」～至宝の日々を覗き見る～』 宮田 隆(東京都多摩市)
  - 『「若き日の芭蕉」 寿貞のこと』 濱 千春(津市)

### ◆岸宏子旧宅の利活用

遺贈を受けた岸さんの旧宅を文学館として活用するため修復計画を進めています。



- ①くみひもを見る岸さん(1960年頃)
- ②岸さんの直筆原稿
- ③岸さん愛用の筆記用具
- ④第1回「雪解」のつどいにて(1999年)
- ⑤横光利一青春碑除幕式にて(1976年)

【問い合わせ】 文化振興課  
 ☎22-9621 FAX 22-9619  
 ✉bunka@city.iga.lg.jp



### 寄稿

#### 岸宏子さん生誕100年に寄せて

生まれ育った町、伊賀上野から離れなかった岸宏子さんには、作家としての顔とは別に気さくな「近所さん」としての顔がありました。自宅を訪れた人が、1〜2時間は腰をあげるい

とまもないほどの話好き。中には、独特の辛口談議が苦手だったという声も聞かれましたが、友人たちに乞われて講師を引き受けたという読書会は30年も続き、テキストから離れて岸さんの幅広い解説を聞くことが参加者の楽しみになっていたそうです。

また、永年の作家活動に対して贈られた勲四等宝冠章等の栄誉も喜んでいただけませんが、額に飾るはずの賞状と勲章は没後に段ボール箱から発見されたといった世俗の形にこだわらない性格を物語るエピソードも思い出されます。  
 (伊賀文学振興会 代表 福田 和幸)



伊賀から作品を  
発表し続けた作家

# 岸 宏子 生誕100年



岸宏子さんは、1922年5月5日に旧阿山郡上野町(現・伊賀市)に生まれました。父は文豪、横光利一の従兄弟にあたります。1942年、20歳の時に、小説『醜女』が日本厚生協会主催の勤労文化賞一席に入賞。戦後、放送作家、小説家として活躍し、ラジオ、テレビでの放送作品数は350作以上、放送回数は2800回を超え、テレビドラマでギャラウシー賞などを受賞されました。

劇「夫“売ります!!”」、舞台劇「喜劇 売らいでか!」になり、舞台劇は1968年の初演から公演回数550回を超えるロングラン作品となりました。そのほか、『若き日の芭蕉』『黒田の悪党』など伊賀や東海地方にゆかりの人物を描いた歴史小説や、エッセイ集『嘘と明日があればこそ』など読者に親しまれた作品が多くあります。また、自ら読書会を開催し、上野農業高校(現伊賀白鳳高校)校歌の作詞をするなど、伊賀地域への貢献もされました。

これらの功績により、紫綬褒章(1990年)、勲四等宝冠章(1995年)を受章されました。1998年には横光利一誕生100年記念イベントに協力され、これはその後毎年恒例となった「雪解」のつどいへとつながっています。終生、伊賀上野で執筆活動を続けた岸さんは、2014年に92歳で逝去されました。岸さんのご遺志により旧宅を含む全資産は市に遺贈されています。

岸宏子さん(2010年頃自宅にて)

